

## 1 研究主題

「人とのつながりを意識し、学びの質を高めていくことのできる生徒の育成」

ー 主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを通してー

(2年計画の1年次)

## 2 研究主題設定理由

生涯にわたって学び続けることのできる生徒の育成が求められている。中学校では2021年度より新学習指導要領が全面実施された。今回の改訂では、まずこれからの時代に必要な育成を目指すべき資質や能力を「3つの柱」として挙げられている。これは「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう人間性等の涵養」、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」の3つで、これらをバランスよく育成するためにカリキュラム・マネジメントの実現や学習評価の充実、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の視点からの学習過程の改善が求められている。教育課程全体や各教科などの学びを通じて、

- ①「なにができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
- ②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義、教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
- ③「どのように学ぶか」(教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)
- ⑤「何が身についたか」(学習評価の充実)
- ⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

が求められており、すべての教職員が共通理解のもと進めていくことが大切である。

本校の研究は、平成29年度より福岡市立東光中学校をモデルとした『学び合い』の考え方による「授業づくり」に取り組んできた。個人としての課題解決だけでなく、他の生徒と協力しながら、学級全員が課題を解決していこうとする授業づくりを行ってきた。さらに昨年度からは、指導要領改訂にともない、単元シートを作成し、生徒は単元の見通しをもって学習にあたり、教師自身も単元の流れを見通して授業づくりや指導、評価へつながるようにしてきた。今年度は、昨年度までの反省をもとに、さらに指導法の改善につなげていきたいと考える。

## 3 研究の組織

研究主題に迫るべく、本校では図のように、『学び合い』(学習環境づくり部)と単元シート作成・学習評価(学力向上部)の2つを柱に研究を進めていくこととする。全職員でこの取り組みを行うが、研究を進めるにあたっては、教科を超えて5つのグループに分けて相互の授業参観、単元シートや指導案の検討、研究授業、学習評価を行うことで研究を深めていく。

・学習環境づくり部：『学び合い』〔◎教科主任、全教職員〕

『学び合い』の考え方による授業を通して、主体的・対話的な学習活動を行うことによって、コミュニケーションを活性化させ、自らの課題を他の生徒と協力しながら解決していく授業づくりを目指す。全体会や教科部会などで指導方法、基礎学力の定着について検討し、授業を行う。

・学力向上部：単元シート作成・授業研究・学習評価〔◎研究副主任(5名)、全教職員〕

単元や題材など内容や時間のまとまりの構成をデザインし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す。各チームで授業研究の指導案検討会から作成する。また、夏季休業・冬季休業中に「主体的に学習に取り組む態度」の観点についてチームで

・「Simpler」プログラム（北辰タイム）〔教育相談部〕

ソーシャルスキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターのねらいを統合した短時間グループアプローチを、毎週水曜日の北辰タイムの時間行う。

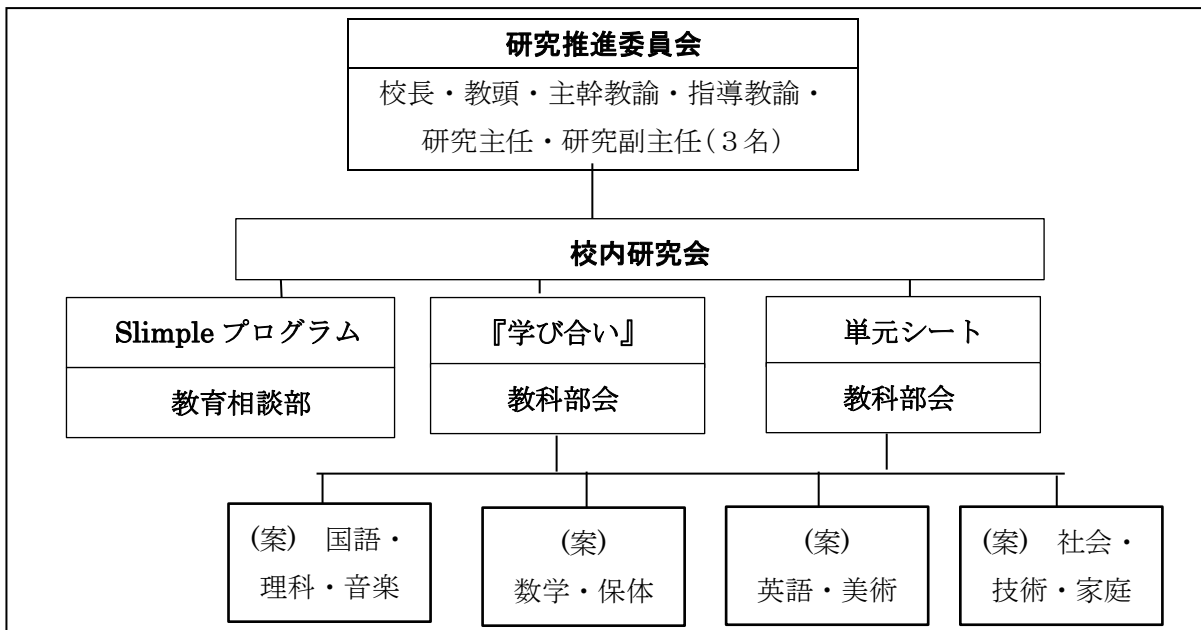


図 研究組織

#### 4 研究の内容、方法等

##### (1) 『学び合い』の実践

ア 『学び合い』の内容と方法 ※『学び合い』とは、授業の方法論ではなく、考え方である。

上越教育大学教職大学院西川純教授の『学び合い』の考え方による授業づくりに取り組み、授業の質を高めていく。『学び合い』を取り入れた授業や授業研究会を通して、指導の改善を検討する。

##### イ 『学び合い』の実践に向けての取り組み

『学び合い』は、子ども同士で教え合い、学び合い、自発的に学習していく授業である。『学び合い』では、まず先生が子どもたちにその時間内ですべて課題を与える。また、その課題を「クラス全員」が達成することを求める。そして子どもたちは課題達成のために、立ち歩いたり他の子どもたちに分からないところを聞いたり、また、分からない子に教えたりするために授業中に動き回る。(『学び合い』スタートブックより)

『学び合い』で大事なポイントは「1人も見捨てない」「全員が課題を達成する」ということである。「全員が課題を達成することが一番大事」、「1人も見捨てないことが一番大事」であることを、教師はぶれずに子どもたちに繰り返し伝えていく。さらには、毎時間の授業の中でだけでなく、普段の学校生活の中でも伝え続ける。このことにより、クラスの間関係にも学力にも成果が現れてくる。また、「全員が課題を達成する」ということも、作業的にワークシート等をうめて終わるのではなく、全員が本当の意味で理解し、全員目標達成へ向かうことで、学力向上へとつながる。

##### 『学び合い』の授業の流れ

① めあてを提示する。

◎ 「一人も見捨てない」で、「全員が分かること」を徹底的に求める。

めあては何か、授業の最後にどうなっていればよいのかを子どもたちがわかるように説明す

る。

【例】「今日の、この授業でのゴール（めあて）は『全員（みんな）が、～をできるようになる』です。みんなで教え合って、全員が分かるようにしていこうね。」

◎教師の語り

- ・何のために学校に来るのか。
- ・何を学ぶべきなのか。
- ・子どものもつ可能性のすごさ。みんななら必ずできる。
- ・自分たちで学んでいけるし、自分たちで教え合うと授業内容がよくわかるようになる。

【例】「自分のことだけでなく、みんなのことも考えられる、立派な大人になるために学校にきて学ぶのである。」（学校観）

「君たちの可能性はすごい。みんなでなら、必ずできる。」（子ども観）

「自分たちで学んでいけるし、自分たちで教え合うと授業内容がよく分かるようになる。」（授業観）

② 課題への取り組み（「さあどうぞ」と立ち歩きを奨励）

教師の「さあ、どうぞ」という声かけで、子どもたちに動きを促す。すると一人で、ペアで、グループで取り組むための動きが出てくる。決まると、子どもたちは課題に取り組む。課題を終えた子は、教え合う。教師は、積極的に子どもたちを動かし、自身のつぶやきでほめたり、生徒をつなげたりする。

③ 誰ができているのか見えるようにする。

◎課題ができていない生徒とできていない生徒がわかるようにするために「ネームプレート」を利用する。

◎「タイマー」を利用し、活動時間が見えるようにする。教師が実況中継しながら、生徒どうしをつなぎ、全員が終わるようにする。

④ 振り返りをする

時間になったら、その時間のクラスとしての学びについて教師が評価をする。また、子どもたちは単元シートに自己の振り返りをする。

(2) 単元シートの作成

ア 単元シート作成の内容と方法

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通すことが必要となる。単元シート作成することによって、「知識・技能」「思考・判断・表現」のどの力をつけたいのか、深い学びをどの時間で設定するのか見通しをもって指導にあたる。また、生徒も学習の見通しをもち、修正をしながら学習に進めていく。作成にあたっては、教科担当で意見交換をしながら進める。

イ 単元シート作成の取り組み

各時間やその単元で理解させたいこと、身につけさせたいことを明確にする。また、ゴールを明確にすることで、授業を通して自分にどういうことが身に付くのが明確になるとともに、見通しをもって粘り強く学習に取り組むことができるようにする。

振り返りの中で、何が分かるようになったのか、『学び合い』の中での友人とのどのような場面で課題解決ができたのかなどを記すことで、次の学習に主体的に取り組むとつなげ、また、自己の学習を調整しながら学習を進めることへとつなげる。

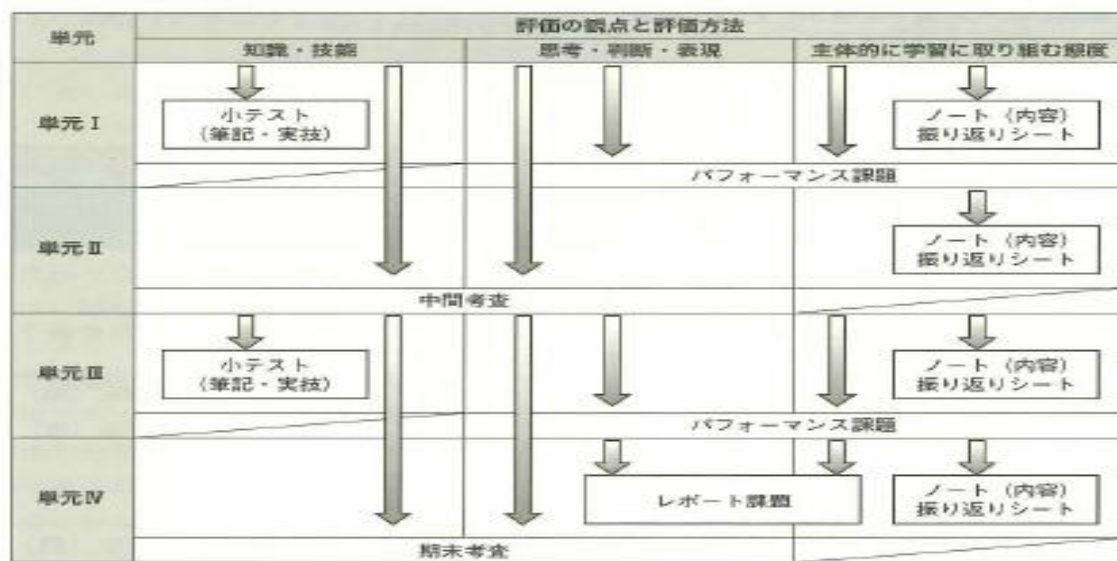
単元シート作成の際、教材研究やワークシート作成、多様な意見や『学び合い』を引き出す力・問いを学年の教科担当で検討することで、授業の充実へもつなげる。

ウ 単元シート作成にあたり、評価との関連

(1) 年度初めに、教科内で年間の見通しをもち、指導や評価にあたる。

Copy right FUKUDA Hitomi 資料 1

観点	領域	書くこと	話すこと (発表)	読むこと (やりとり)	読むこと	書くこと	聞くこと
①知識・技能		ワークシート ・即興スキット作り ・stage activity ・中間テスト ・期末テスト ・実力テスト	授業 U3-3 ・英語で発表 ・チャレンジ ・展覧 ・stage activity p.54-55	授業 授業 授業 ・英語で発表 ・即興スキット作り p.54-55	授業 U3-3 ・中間テスト ・実力テスト ・期末テスト		・中間テスト ・実力テスト ・期末テスト
②思考・判断・表現		オリンピックレポート ・3ヒントクイズ ・stage activity ・即興スキットづくり ・実力テスト ・単元テスト	オリンピックレポート U4-3 p.54-55 ・オリンピックレポート U3-3 ・stage activity	インタビューテスト p.54-55 ・インタビューテスト	・3ヒントクイズ ・実力テスト ・単元テスト	U5-2	・3ヒントクイズ ・インタビューテスト ・実力テスト ・単元テスト U4-3
③主体的に学習に取り組む態度		オリンピックレポート ・stage activity ・即興スキットづくり	オリンピックレポート p.54-55 U3-3 ・オリンピックレポート ・stage activity	インタビューテスト p.54-55 ・インタビューテスト	・3ヒントクイズ	U5-2	・3ヒントクイズ ・インタビューテスト U4-3



(2) 単元ごとに、指導に生かす評価と記録に残す評価の確認を行う。また、確認した内容は単元シートにも記載をする。

時 間	1	2	3	4	5	6	7	8	9
知識・技能		○	○		○	○			○
思考・判断・表現				○			○	○	○
主体的に学習に取り組む態度	○							○	○

(3) 単元シートと単元の導入、授業展開

単元シートを作成し生徒に配布する際には、この単元を通して身に着けてほしい力（こうなっていてほしい姿：B評価）や単元の流れなどを説明し、生徒に見通しをもたせる。また、授業では「一人も見捨てない」授業づくり（『学び合い』）に取り組むほか、ゴールの姿を意識した授業づくりや補充的な学習・発展的な学習を取り入れた授業展開を行う。

(4) パフォーマンス課題（レポート）の実施

年間に2～3回程度のパフォーマンス課題（レポート）を取り入れ、評価に生かす。課題を行う際には、評価基準を定め、生徒にも提示をする。また、評価基準を決める際だけでなく、課題後の評価を行った後には教科内で持ちより、評価の共有化を行い、次へとつなげる。

5 研究計画

	学校行事 等	計画
4月	・入学式	【第1回校内研】◎研究主題，組織，年間計画などの確認。 ◎教科部会で『学び合い』に関する情報交換 評価，単元シート作成についての確認，置き勉強道具の確認
5月	・修学旅行	【第2回校内研】◎相互『学び合い』…各グループで確認 ◎前期中間テストの試験範囲，テスト出題問題， 1年生チェックリストについて確認。 ◎7月学校生活・『学び合い』アンケートの実施についての連絡
6月	・教育相談週間 ・前期中間テスト	【第3回校内研】◎教科部会で単元シート作成に関する情報，意見交換。
7月	・中体連 ・保護者面談 ・三者面談	【第4回校内研】◎相互『学び合い』授業見学週間の振り返り。 ◎教科部会で夏休み課題の精選。単元シート作成について。
8月	・登校日 ・SAGA テスト	【第5回校内研】◎全国・学力調査分析 ◎Q-Uアンケートの分析と今後の取り組み。 ◎7月学校生活・『学び合い』アンケートの集計と分析。 【第6回校内研】◎前期末テストまでの日程確認，等。
9月	・体育大会 ・前期期末	
10月	・文化発表会・合唱コンクール ・後期中間テスト ・教育相談週間	【第7回校内研】◎『学び合い』研究授業 授業研究会 ◎12月『学び合い』・学校アンケート・職員アンケートについての連絡
11月		【第8回校内研】◎『学び合い』について，意見交換（グループ協議）
12月	・保護者面談 ・三者面談	

1 月	・私立前期入試	【第9回校内研】 <ul style="list-style-type: none"> <li>●12月学習状況調査分析</li> <li>●『学び合い』の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学年末テストまでの日程確認, 等</li> <li>●学校生活アンケートの集計・分析。</li> </ul>
2 月	・私立後期入試 ・県立特別選抜	【第10回校内研】 <ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次年度の計画の確認</li> </ul>

## 6 期待される成果

『学び合い』の授業を通して、他の生徒と協力し、自立した学習集団を形成し、12月の学校生活アンケートで90%以上の生徒が「授業がよく分かりますか」のアンケート項目で、全教科において「大変あてはまる」「あてはまる」の肯定的な意見に回答する。

### ～参考資料～

「ヤマ場をおさえる学習評価 深い学びを促す指導と評価の一体化入門」石井英真/鈴木秀幸 著